



せんちゃん

会記

平成二十九年十二月二十三日（土）叡智庵

第十二回 茶事「杓底一残水」 正午茶事

文化庁 平成二十九年文化庁親子教室事業

親子茶道教室 茶事「杓底一残水」



御客

○	○	◇	◇
○	○	□	□
○	△	△	△
○	○	○	○
○	○	○	○

様 様 様 様

全七名



前日迄準備

懐石膳発注、主菓子、干菓子、海・山の幸、ポン酢、沢庵、飲み物、即席みそ汁、馳走。八寸（山海の珍味）、湯斗、温石、仕込み。
煎茶道具・茶の湯道具準備、カメラ、三脚（**来果**）

当日準備

露地清掃、茶席清掃、座布団四枚（**来果**）
干菓子器、主菓子器、温石箸置き、
懐石膳、引取（**来果**）

十時十分集合 水屋準備

涼炉電源入れ、盆仕組、盆巾、茶巾仕組、煎茶席座右荘準備（○○）
茶碗・建水仕組、茶の湯席準備（△△）

十時五〇分 受付（○○、△△）

門扉まで出迎え（目礼のみ、言葉を交わさない。近隣への配慮）
玄関ドアを開け招き入れ以下案内する。
客、手荷物をハンガー、階段下へ纏める。

十一時 煎茶席 席入（○○、案内をしつつ手水を使う）



ちやーちゃん



せんちゃん

寄付き（見立て）

「茶事は初めてとのこと、ご案内いたします。」と正客より導き、自ら手水を使い清め、客に勧める。扁額「叡智庵です」と読み上げ、席に招き入れ、床の軸、花をご覧いただく。

煎茶席拝見

席主の趣向、色紙、床荘拝見、正客に正客座布団の席に勧め、次客以降同様に勧め、茶道口より下がる。



設え

蹲据 手水鉢（織部）・竹箴・つくばい柄杓

小堀遠州水琴窟 信楽焼 重藏室

扁額 『叡智庵』秀昭書

待合（見立）

床 軸 福寿康寧 愛新覚羅恒珽筆

花 菊数種、金魚草、万両、他

花入 魚籠



初座

煎茶道席 席主（○○○） 取次（△△△）

席主挨拶（茶道口を開け）

○○、「本日はお越しいただき誠にありがとうございます。」

自分の言葉で良い。手前座に進む

△△、菓子器を持ち、席主に続き、正客前に置く。

玉露手前

「一煎差し上げます。」

（○○○、真のお辞儀）

一煎 甘露滴滴、

「甘露でございます」△△△、取り次ぐ



ちやーちゃん



せんちゃん

二煎 茶味一碗、

「茶味でございます」△△、取り次ぐ

「お菓子をお取り分け、お廻し下さい。」

△△、必要に応じ勧める、介助する。

白湯 白湯一碗、

「白湯でございます。」△△、取り次ぐ

仕舞付け



茶道口に下がり、「席を改めますので、お手洗
いを使用するなり、おくつろぎ下さい。」と挨拶する。襖は開けたままと
する。

設え

煎茶道席

座右荘

床 文房具荘

軸 色紙「冬」○○○○書

白玉椿 一輪



名水『東京水』 水道水クリンスイ仕立て

<http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/tokyo-sui/index.html>

茶 玉露『富貴』 京都寺町 蓬萊道茶舗

<http://www.kyoto-teramachi.or.jp/horaido/>

干菓子 松、まほろば、雪、鶴

東宮

菓子器 四角盆 真塗



席改め

煎茶席盆仕組(○○)、涼炉他座右荘(來果) 下げる

床 軸「杓底一残水」、一炷(來果)

茶の湯席 涼炉電源を入れる(△△)

席入り案内(來果)

坐禅(アプリ「雲堂」) 瞑想

四分の一炷(十々十五分)に短縮



ちやーちゃん



せんちゃん

茶釜横席から右へ、茶の湯席正客から勧める

水屋準備

懐石準備、

懐石盆へ懐石弁当解包、温石、箸、汁椀、乗せる

(○○・△△)

温石、汁椀、玉露茶葉ポーン酢浸し、準備(来果)

懐石席 十二時：坐禅・茶の湯席に順じ

懐石膳運び出し

△△↓お父様、○○↓お父様、

△△↓お母様、○○↓お母様

「お箸をお取り上げください。」

一献目お酌

△△↓お父様、○○↓お父様、

△△↓お母様、○○↓お母様

各自、懐石膳持参、両親に向かい合う

八寸、千鳥の杯

山海珍味を手塩皿にお取りして、

香の物(沢庵)湯斗(浄水)(来果)

行鉢(ぎょうはち)

(知足・餓鬼への分け前)

<http://www.soto-kanto.net/>

懐石膳を下げ、主菓子

茶道口から、「お菓子をお目仕上りの

上、席を改めますので、

お手洗いをご利用するな

り、おくつろぎ下さい。」

中立・席改め

床 軸 色紙「感謝」(□□△△書)

白玉椿一輪 竹一輪挿し(庵)



ちやーちゃん



せんちゃん

(主)

釜電源弱にし、蓋を切る (△△)

後座 席入り 十三時半

茶の湯 薄茶席 席主 ○○ 半東 △△

○○、扇子を置き真のお辞儀をして手前座へ

△△、菓子器を持ち席主に続き、正客前に置く。

茶杓を取り正客の目を見て「お菓子をどうぞお取りください」

織部 △△様

赤楽 ○○様

黒楽 ◇◇様

紅葉 □□様

茶碗はそれぞれお子さんが選びました。

仕舞付け

風炉 面取風炉 唐銅 唐銅師 麻生雄芳作

釜 万代屋釜 利休好写 佐藤浄清作

水指 作者不詳

柄杓 風炉用 奈良高山 竹茗堂 久保左文

<http://www.chasen.jp/index.html>

建水 箕景(たばこば) 西尾瑞豊

オランダ 阿蘭陀 和蘭 紅毛

蓋置 作者 不明

薄器 利休型中棗

茶杓 煤竹 來果作 銘「知足」

織部 不明

赤楽 利休七種茶碗 長次郎写し

「早舟」佐々木照樂作

黒楽 利休七種茶碗 長次郎写し「鉢

閑」佐々木照樂作

茶碗 茶碗 紅葉 宮地英香作

茶筌 百本 奈良高山 竹茗(ちくめ

い)堂 久保左文

<http://www.chasen.jp/index.html>



ちやーちゃん





せんちゃん

茶 薄茶「西園の白」 青松園

<http://www.odakyu-halc.jp/cm/shop/shop017>

菓子盒 扇面絵替り盒

仕舞付け

菓子器、茶碗を取り、茶道口へ下がる (△△)

茶道口に下がり、襖を閉める (○○)



○○、△△、茶道口より茶席に入り、客一人一人と挨拶を交わす。
茶道口に下がる。客が最後に拝見品、莊を拝見し、躰り口より下がり、
寄付きで身支度し、見送りの席主と目礼を交わし、席主は見えなくなる
迄見送る。

修了証書授与式

独座親念

閑催者及び客 懇親

散会

席主	煎茶道席	○○	○○
叡智庵主	茶の湯席	□□	△△
	證道來果 (湯澤秀昭)		○○



杓底一残水 (しゃくていのいちざんすい)
汲流千億人 (ながれをくむせんおくにん)

<http://www.soto-kanto.net/>
茶事「杓底一残水」

<http://www.cosmos-gi.co.jp/base3.html>

主催 叡智得留俱樂部

www.cosmos-gi.co.jp/hl_club.html



ちゃんちゃん



せんちゃん

茶事「杓底一残水」の目的

- 一、茶事を通し「杓底一残水（しゃくていいちざんすい）」、より多くの方が幸せ「汲流千億人（ながれをくむせんおくにん）」になり、自己も幸せを感じることに。
- 二、誰でもが一人でも気軽に流派、形式にこだわらず、和の総合伝統文化「茶事（ちゃじ）」を催す。
- 三、「茶道（ちやどう）」を身に付け、グローバル社会で和（日本ではない）の伝統文化を語り、所作が出来る。

知足

紛争地では多くの市民、子供が命からがら逃げ廻っている。それらを多くのジャーナリストが命を掛け、世界から情報を発信している。そして、命を落としている。それらの情報を私たちはどのように受け止め、そして・・・？

名水「東京水」

日本では水道の蛇口を開けば、清潔な美味しい水が簡単に飲める。しかし、世界では飲み水が無い、入手できても清潔でない、未だに水汲みをせざるをえない地域が多くある。我々は如何に幸せなことではな
いか？

食物

日本では近隣のお店で、多種多様な食物を簡単に入手できる。世界では未だに、食物が足りず、今、命を落としている人が多く居る。

反面、肥満で生活習慣病になる人、食べ残し、賞味期限切れで多くの食物が廃棄される現実がある。これは何なのか？

杓底一残水

今日、食べ、楽しめた人が、「一残水」を川の流れに戻す

汲流千億人

戻した流れを今、世界の飢えている人々に確実に流し、生活環境を作る

茶事「杓底一残水」

この流れを確実にする仕組み作りをし、底上げを確実にする活動



ちゃーちゃん